

21世紀をになう子どもたちのために

—心に寄り添い育もう 自分らしく生きていく力を—

2022/10/9

第69回愛知母と女性教職員の会

10月9日、保護者と教職員、約120人の参加のもと、愛知母と女性教職員の会が開催されました。全体会では、提案及び講演が行われ、それらを受けて分散会が行われました。保護者と教職員が、子どもたちの健やかな成長を願い、熱心に語り合いました。

講演会

演題：「自己肯定感を高め、個性豊かな子育て、自分育て」

講師：菅生好身さん（ライフバランス協会代表理事）



俳優である菅田将暉さんを含め、三人のお子さんを育てた母親として、ご自身の経験やご家庭の様子を交えながらお話しいただきました。マタニティスクールの先生から聞いた「子どもは宇宙からの授かりもの」「社会に役立つような温かい人に育てて送り出してください」という言葉が今でも心に残っていると話されました。子どものよくない面に目を向けるのではなく、子どもに寄り添い、よい部分を理解し、ほめることが大切だと教えていただきました。また、相手に与える印象に大きく影響するのは視覚であることから、子どもたちに見られていることを意識し、家の中が明るくなるように心がけてきたそうです。「失敗を叱るのではなく、チャレンジしたことの勇気をほめることで、子どもたちが『今何をしたら周りが喜んでくれるか』を考えることができるようになる」「『あの子は大丈夫』と信頼することで、子どもはチャレンジすることができるようになる」と教えていただきました。参加者一人ひとりが、日々向き合っている家族や子どもたちを想いながら、子育てや家族とのかかわり方について、考えるひとときとなりました。

基調提案

「一人ひとりが自立し、ともに生きる力をどう育てるか
—自分らしく生きることを考える実践を通して—」

女性部が30年以上にわたりすすめている「ジェンダー平等教育」について提案されました。

小学校4年生の実践において、外部講師を招きLGBTQ+についての話を聞き、ジェンダー平等について考えた実践報告がされました。意識していなかった固定観念に気付いたり、「自分らしさとは何か」を考えたりする中で、お互いの個性を大切にすることの大切さに気付く子どもの姿や、自分にできることを多面的・多角的に考える子どもの姿が報告されました。

分散会

テーマ「心に寄り添い育もう 自分らしく生きていく力を」

「自分らしく生きるとはどういうことか」「子どものために、親として教職員としてできることは」という観点で、グループ討議が行われました。自分らしく生きることに対しては「自分自身を知り、好きになることが大切」「時と場合によって、いろいろな自分があることも認める」「自己表現ができる場を見つける」などの意見が出されました。そして、目の前の子どもたちに対して、「一人の人間として接し、歩み寄ることが大切」「いろいろな経験を通して自己決定ができるように見守る」「大人が自分らしく生きて、その姿を見せる」など、親として、教職員として、どうあるべきかを考える場となりました。

参加者の声

- ・自分の子育てを振り返り、つい、子どもへの心配や不安が信頼より大きくなってしまい、悪いところばかり言ってしまうことに気がきました。菅生さんのように、自分の子どもを信じて、子どもが「チャレンジしてみよう！」と思えるように、ポジティブな声掛けをたくさんしていこうと思いました。
- ・自分の固定観念に気づき、フラットな目で子どもに接していきたいと、お話を聞いて感じました。子どもたちをほめる機会をどんどん増やし、自己肯定感を高めていきたいです。
- ・小さい頃から、友達存在を認めたり、自分らしい生き方について考えたりする機会があると、いろいろな感じ方を受け入れられる子どもに育つのではないかなと思いました。
- ・子ども一人一人は違って、それを個性として認めることが大切であると改めて感じました。教員としても親としても、よき理解者となれるように、「かける言葉」を選んで伝えていきたいと思っています。
- ・心配が先立ってしまい、つい否定的な発言を子どもにしてしまうことがありますが、ありのままの姿を受け止め、「失敗しても大丈夫」「何とかなるさ」という言葉がけを意識し、心にゆとりをもって見守っていききたいと思っています。